

修士課程（看護学専攻）

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

旭川医科大学医学系研究科看護学専攻（修士課程）では、「修士論文コース」と「高度実践コース」の2つのコースを設けています。いずれも、専門領域の教授による指導を基本とします。

修士論文コースでは、研究に関する基礎的能力を養う共通科目と各領域の学識を深める専門科目を設けています。共通科目と専門科目の特論・演習をとおして看護学に関する専門的な知識、および思考・判断、研究者としての態度、技能を修得します。これらを基盤に特別研究として修士論文を作成し、研究能力を修得するとともに地域社会・国際社会へ貢献する意欲・関心を育みます。このような、体系的な教育をとおして看護学の発展に貢献する研究能力を備え社会に貢献できる人材の育成を目指します。

高度実践コースでは、がん看護専門看護師及び老人看護専門看護師に必須の高度な専門知識と実践能力を修得できるよう、共通科目と専門科目を設けています。共通科目をとおして高度な看護実践に必要な知識、態度を修得し、その上に、各分野（がん看護学・高齢者看護学）の専攻分野共通科目、専攻分野専門科目をとおして高度な知識、思考・判断、技能を養い、さらに実習・研究をとおして高度な看護実践能力を養うとともに地域社会・国際社会へ貢献する意欲・関心を育みます。このような、体系的な教育をとおして看護学の発展と患者・家族のQOL(生活の質)の視点に立った水準の高い看護を提供し社会に貢献できる人材の育成を目指します。

以上のように、学生の主体的な学びを支えるため、可能な限り一人ひとりの学生が効率的に学修できるよう開講時期や時間を調整するよう努めています。

学修成果の評価は、共通科目、専門科目及び学位論文についてあらかじめ定められた基準に従って行われます。なお、提出された学位論文は、大学院委員会が設置する論文審査委員会による審査及び最終試験により評価されます。